

南地区歴史・
魅力探訪マップ
から抜粋してご紹介しています。



紫式部公園周辺コース

- ①ふるさとを偲ぶ散歩道
- ②金灯籠
- ③紫式部公園
- ④弘法寺
- ⑤叔羅
- ⑥ころり観音
- ⑦藤波亭



紫式部公園

紫式部が過ごした長徳2年(996年)当時の、府中国守館の寝殿造り庭園を再現したものである。寝殿の位置は社稷殿に見立て御影石で囲って芝を張り、東に透渡廊から見える泉を設えた。東北渡廊・東対屋・侍廊・立部・東中門廊・厩などは、石組みや生け垣で輪郭の跡を伝えている。必ず月が映るように造られた池に面して、総檜造りの釣殿を再現した。池には、州浜や中島を配し、朱塗勾欄の橋が架けられている。園内の西対屋にあたる源氏雲を象った植込の上に、十二単姿の金色眩い紫式部立像が日野山を望み見ている。

藤波亭



紫式部ゆかりの藤の花に因んで名付けられた無料休憩所である。シックな数奇屋風の建物の内外には、紫式部や平安を偲ばせる数々の趣向が凝らされている。
[連絡先]0778-22-7133

ふるさとを偲ぶ散歩道

歌人と謝野晶子が、あまりにも明媚な風情に感嘆し「松かえで 都のあらし山のごとまじる武生の みぞの両側」と詠んだ旧北陸道の松並木と清流の町用水を模して造られた遊歩道である。約1キロの道筋には、武生を偲ぶさまざまな趣向が凝らされている。



文政13年本町の旧北陸道沿いに建立されたが、第二次世界大戦末に金属回収のため供出された。昭和42年に復元されて万代橋西詰に設置されたが、昭和63年ふるさとを偲ぶ散歩道沿いに移築された。

金灯籠



叔羅

ふるさとギャラリーとして開館し、常設館、第一展示館、第二展示館などがあり、常時市民の作品展が開催されている。
[連絡先] 0778-23-5811



弘法寺

国府二丁目に創建され、昭和62年この地に移転した真言宗の寺院である。境内の霊場には、大日如来、一弘慈母観音、三王不動明王などが安置されて一大曼陀羅の世界が形成されている。



ころり観音

伝承によれば、この観音さまにお参りすると長生きをすることなく、ころりと逝くことができる秘かに伝えられ信仰を集めていたという。